

5. 本邦報道記事



青空がみたい | インドネシア森林火災

インドネシアの森林火災で発生した煙がマレーシアやシンガポールの上空にまで広がり、深刻な大気汚染をもたらしている。

(7面に関連記事)

マレーシアでは先週、サラワク州の州都クチンで汚染指数が「危険レベル」(301~500)を超える625に達し、マハティール首相は同州に非常事態宣言を発令。シンガポールでも汚染指数は過去最悪を記録した。煙害が深刻化するにつれて住民のマスクの着用



【写真】ロイターが首都になった。火災の原因はインドネシアのカリマンタン(ボルネオ島)やスマトラ島での「野焼き」の火。異常気象で乾燥した森林に火が燃え広がり、各地で大規模火災に発展した。最も火災の被害が大きいう州レンガット地区では、懸命な消火作業を続ける人々(同)・大家屋を焼く人々(同)・ジャングルを方ンリンで歩く被災者の姿も見られた。

【レンガットで大規模火災】

9.9.22 毎日(朝刊)



マスクをかけ煙害から身を守るシン
ガポールの小学生＝ロイター共同

インドネシアで発生した大規模な山火事による煙霧の被害がマレーシアで深刻になり、健康を脅かして同国を脱出する動きが広がっている。クアラルンプールの米国大使館は二十四日、館員や館員家族に一時帰国を求めた。フランス人学校は休校措置をとり、インターナショナルスクールも欠席を認めている。日本人学校は近日中に対応を決めるが、すでに日系企業の一部でも、駐在員の家族を一時

煙害、マレーシア脱出続々

帰国させる例が出始めている。

シンガポールでも、児童や老人に外出を控えるよう呼び出している。

邦人駐在員の家族ら▶

マレー半島を覆っている煙霧は一向に弱まらず、マレーシア・サラワク州の非情事態宣言は一週連続いたまま。雨期を迎える十一月まで煙霧の一時は難しいとの悲観的な見方が強まっている。

(クアラルンプール)

■ 奥村幸広

25日、煙霧によるぜんそくのためクアラランプールの病院で手当てを受ける9歳の少女=ロイター



インドネシアのスモッグ被害

【バンコク25日広報金西郎】インドネシアの山焼きを原因とするスモッグ被害がマレーシア、シンガポールのほかタイ南部やブルネイ、フィリピン南部の計5カ国に広がり、世界銀行のウォルフエンソン機裁は25日、被害国に資金援助する意向を表明した。マレーシアなどでは外国人旅行者のキャンセルが続出するなど、スモッグ被害は通貨危機に陥む東南アジア各国に暗い影を落としてい

る。タイ南部の観光地プーケットやスラタニでは23日から、もやが広がり、視界は2.4未満になった。今このころ飛行機の運航に影響はなく、大きな支障は出ていないが、大気汚染度が上昇しているため、関係機関は監視を強めている。インドネシア当局によると、スモッグによる呼吸器疾患で3万2000人以上が呼吸困難を訴え、マレーシアでも1万5000人以上が病院で手当てを受けた。スモッグによる被害は観光業だけでなく、パームオイル産業にも悪影響を及ぼしている。

シマ当局が8400人の消防士を動員しているほか、マレーシア当局も1200人をインドネシア・スマトラ島などに派遣。フランスやタイ、フィリピンなどが現地への人員派遣を検討している。

豪・米が渡航注意呼び掛け
【ジャカルタ25日大衆通信】オーストラリア外務省は25日、インドネシアの山焼きの煙がマレーシアやシンガポールなどに深刻な健康不安を与えている問題で、インドネシア、マレー

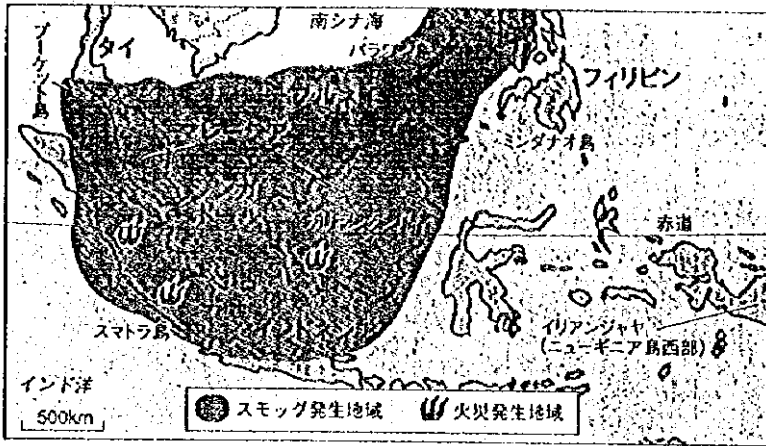
世銀、資金援助へ 5カ国に拡大、産業に影響

シア、シンガポール、ブルネイの4カ国への渡航に関し、注意するよう呼び掛けた。シドニーからの報道によると、外務省は4カ国へ渡航する人に大気汚染が健康被害を与える可能性を指摘するとともに、特に妊婦、気管支系や心臓の持病がある人の渡航を自粛するよう求めている。

またワシントンからの報道によると、米国務省は24日、「(4カ国の)大気汚染状況は極めて危険で、健康に被害を及ぼす可能性がある」として同地域に滞在中の米国民や米国人旅行者に注意を促す声明を発表した。さらにクアララン

プールの米大使館では健康に不安を抱く船員とその家族に対し、マレーシア一時退去の許可が与えられている。

東南アジア



スモッグ被害拡大

呼吸困難で死者も



25日、スマトラ島のバンキナンでスモッグ対策のマスクを扱う人たちが繁盛する露店(ロイター)

「シンガポール25日」林田祐章「インドネシアのほぼ全域を覆い始め、社会生活に深刻な影響をもたらしている。」

インドネシア政府は、干やフィリピン北部のルソン四日、スモッグによる呼吸困難のため、二人が死亡したほか、三万七千人が呼吸器系障害に陥つたと発表し、干はつてもとと食糧危機にあったイリアンジャヤ(ニューギニア島西部)には、スモッグのために援助物資を輸送することができず、二百六十人が飢えや病気で死亡したという。

被害は、マレーシアやシンガポールから、タイ南部やフィリピン北部のルソン島にまで及んでいる。インドネシアの山林火災によるスモッグは、七七年にマレーシアとシンガポールで初観測されて以後、乾季には毎年見られた。今年度の汚染度は最悪で、二月近くも続いている。干ばつとエルニーニョ現象が重なったうえ、さらに、火災がカリマンタン島の泥炭地帯に燃え移ったことが災いしているらしい。

十九日に非常事態宣言が出されたマレーシア・サラワク州の州都クチンでは二十三日、大気汚染度がついに正統時の十六倍に達した。住民約百九十万人の避難も検討されたものの、海、空路とも閉ざされたままだ。

高層ビルがすっぽりスモッグに覆れたクアラルンプールの米国外使館は館員と家族に、マレーシアを脱出するよう促した。邦人家族の中には、徐々に帰国の動きが出ているという。

森林焼失は地球的災害だ

六カ国の空を侵すほどの煙の被害とは、想像を絶するものがある。

インドネシアのボルネオ島やスマトラ島などで発生した森林火災は、三カ月も続いている。煙はマレーシア、シンガポール、さらにはタイやフィリピンなどの一部にまで及んだ。東南アジアの島しょ部一帯を覆る煙霧は、数千万の人ひとの生活や健康、自然の生態系に打撃を与えている。

米国やカナダは外交官の一時退避を指示

し、英独両国は渡航自粛を勧告した。在留邦人にも、脱出の動きが出ている。

しかし地域住民には、煙害から逃れるすべはない。甘きや鼻水に苦しみ、甘んずるなどで五万人近くが治療を受け三人が死んだ。二十六日のガルーダ航空機墜落の原因も煙霧との関連が疑われている。

焼き畑農薬の火が原因と見られる森林火災は、小規模ながら毎日起きている。インドネシア政府は今回、森林に火を放った開

発業者百七十六社を公表した。人口が急増する島々で、森林を切りひらいていく開発の波が火災の背景にあったのだろうか。

今年はエルニーニョ現象による異常気象で、降雨量が極端に少なく空気が乾燥しきっていたことも災いした。干ばつで多くの犠牲者が出ていると伝えられる。

少なくとも三十万坪の森林が、すでに失われた。心配なのは、熱帯雨林の動植物への影響だ。サイヤトラ、オランウータン、サイチョウなどの野生生物、貴重な薬草など世界的に絶滅が懸念されてきた動植物が、さらにこれだけ失われるのか。多様な生物種と遺伝子の宝庫とされる熱帯雨林の焼失は、人類全体の損失である。

火災で発生する大量の二酸化炭素が地球温暖化を促進することも気になる。

マレーシアは、高まる国民の不安に消防士を隣国の火災現場に送った。インドネシアともども、日本に援助を求めている。

災害の規模を考えると、官民協力してできる限りの支援を急ぎたい。

外務省は、消防士が背負って運べる小型消防器六百個を贈ることを決めた。国際協力事業団(JICA)の国際緊急援助隊も、大気汚染対策や消火の専門家、医師らの救援隊「チーム、十二人」を週明けにインドネシア、マレーシアに派遣する。

正式結成十周年を迎えた援助隊は二十一日に記念訓練を公開した。世界各地での活動を期待されているが、今回の救援でも、いくつもの課題が浮かび上がった。

緊急災害に備えて、援助隊は炊米、アジアの海外四方所に援助物資を備蓄している。だが、シンガポールにある備蓄倉庫には、地震や台風被害に備えたメントや発電機、医療器具などはあったが、マスクや消火器具など森林火災を想定した備蓄はなかった。火災多発の現地事情からすれば、必要な物資ではなかったらうか。

当初、相手国の要請がある前に調査団の派遣を検討したが、効果的な消火方法がないという判断から断念した。だが、その後の結果をみれば、さまざまな援助の方策を柔軟に検討すべきであった。

民衆紛争や貧困などにともなうて発生する難民救済に対応できないといった問題点とあわせ、緊急援助隊は新しい使命災害といらもう一つの課題を背負った。

長期的には、大規模火災の背景となった森林の乱伐を食い止める必要がある。きちんと森林経営が持続できるような条件づくりには、木材や製品の輸入国である日本の責任は大きい。

事態は、地球的視野でとらえる必要がある。対岸の火事ではない。

インドネシア森林火災

国際緊急援助隊を派遣

インドネシアで深刻化している森林火災消火活動を援助するため政府は29日午前、インドネシアとマレーシア両国に、専門家チームによる国際緊急援助隊を派遣した。

国際協力事業団（JICA）によると、援助隊はそれぞれ6人のチーム。インドネシアは森林火災救済目的で、外務省から団長1人のほか消防庁から2人、医師2人、コメディネーターとしてJICA職員が1人。マレーシアは大気汚染救済として、団長以下、汚染測定専門家2人、医師2人など。

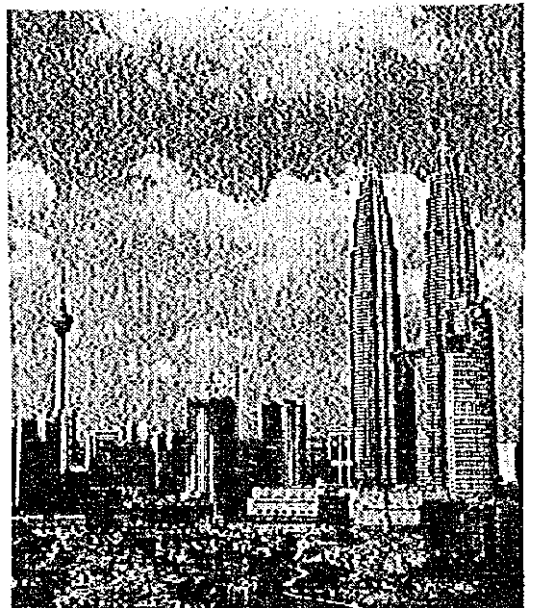
JICAは、インドネシ

アに森林火災消火活動用として先週、背負い式の消火用具300台を送っており、消防隊などに使用方法を教える。マレーシアでは、空気中の煤塵を測定する器材と防塵用マスク数百を持ち込み、現地で救済活動にあたる。

両チームは来月10日までの12日間活動する予定。

平9.11.21

読売(朝刊)



20日、雨期の到来とともに煙霧が消え去り、久しぶりに晴れ渡ったクアラルンプール市内(ロイター)



マレーシアなど

「シンガポール20日」林田裕賢 インドネシアの山林火災によるマレーシアやシンガポールの煙霧が、ようやく晴れた。雨期の到来とともに季節風の向きが変わったため、八月以来ずっと空が真っ白だったシンガポールでは、ほぼ三か月ぶりに日が差している。

史上最悪となった今回の煙霧では、城内で三十万人近くが呼吸器系障害に陥り、火元に近いインドネシア・スマトラ島ジャバ州では少なくとも十七人が死亡した。経済活動への影響も大きく、一時非常事態宣言が出たマレーシア・サラワク州では、工場の操業停止などで約三千万マレーシア・ル(約十二億円)の損害を被った。各地で外国からの観光客も減った。

マレーシア政府当局者は十八日、「煙霧は終息した」と語り、シンガポール環境省も十九日、「今年はずっと煙霧の影響はない」と宣言した。しかし、季節風は来年三月に再び向きを変えることから、「終息は一時的なものかも知れない」との声も出ている。

平9.11.28

産経(朝刊)

朝日(朝刊)

煙害の終息 共同で宣言

ASEAN

「シンガポール支局27日」インドネシアの森林火災がもとで周辺国に深刻な大気汚染と健康被害をもたらした煙害について、東南アジア諸国連合(ASEAN)の観光振興機関は二十七日、共同で終息声明を発表した。

ASEAN 煙害終息を共同宣言

「シンガポール27日」共同。過去数カ月間わたって深刻な大気汚染と健康被害をもたらしてきた煙害の被害に遭ったインドネシア、シンガポールなど東南アジア諸国連合(ASEAN)の観光振興機関は二十七日、共同で声明を出し、煙害が終息したと宣言した。
声明はインドネシア観光省高官の語として、煙害の原因であった同国スマトラ島、カリマンタン(ボルネオ)島の森林火災が鎮火し、両島の空は今年十七日以来、閉鎖されていなかった。旅行は安全になり、新しい空を呼吸し、大気汚染を減らすと宣言を行った。

観光収入減…煙害発言に禁止令

教育省によると通達は先月十七日に出され、大学、教員、研究者などが種別別、研究費の削減を要するよう禁止令を出して来たことが明らかになった。観光業などへの打撃がこれ以上なることを懸念した措置のようだが、知る権利や言論の自由をめぐり、論争が起きている。

教育省によると通達は先月十七日に出され、大学、教員、研究者などが種別別、研究費の削減を要するよう禁止令を出して来たことが明らかになった。観光業などへの打撃がこれ以上なることを懸念した措置のようだが、知る権利や言論の自由をめぐり、論争が起きている。

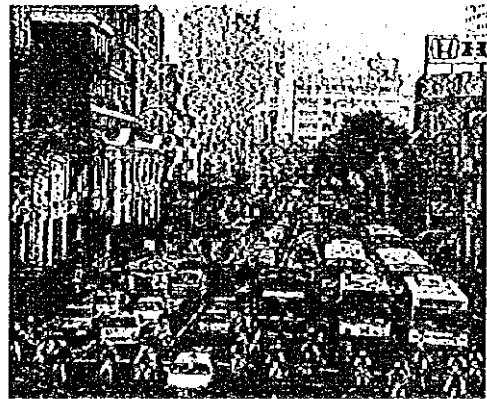
マレーシア政府

言論の自由めぐり論争

研究機関に
対象

相殺を後ろ向きと批判した。また野党・民吉勳党の指導者の一人リム・ジャヤは「マレーシアの民主主義にとって暗黒の時代になる」とも反対した。

しかし、非政府組織「マレーシアの自由と抑圧」は、現政府の自由を押しつぶすつもりはないが、国益というものがあつて、国のイメージが向上することを望ましい」と主張。そして「本意切な協同関係に解



用なパニックを与えかねない」とも主張している。同国政府がこれまで毎年第一位を占める成長産業となった観光業が、種別別大きな打撃を受けていることがあつた。

ただ、こうした措置が別の意味で同国にマイナスになりかねないとの指摘もあまりないようだ。

観光業の落ち込みを懸念するのと同国シンガポールも同様で、この影響を地元紙も大きく取り、関心の強さを示している。

森林火災の影響で街全体がすばりと煙に覆われたマレーシアの首都クアラルンプール。道路沿いのビルでも観光客が減少し、政府を悩ませている。(AIC)

これに対してマスコミをはじめ野党、環境団体など非政府組織(NGO)も反対の陣営を組織。中には一切の新聞で発言禁止との要求も生まれ、教育相は多少ためて「種別別のような微妙な問題に限る。また研究自体を禁止したわけではなく」と釈明する一節も。

しかし有力紙ニュー・ストレーツ・タイムズのナシオン編集長は紙上で「科学的、技術的進歩を促さなくてはならないが、その普及に障壁を設け、知識の共有を妨げている」と政府の

97. 12. 25

(地 方)



⑦

大気中の二酸化硫黄や浮遊物質の濃度を示す大気汚染指数(API)は二〇〇を越すと「不健康」、三〇〇を越すと「健康に危険」とされるが、橋口さんらが現地入りした直前は「非常に悪い」状態となり、二番目の現地入りとなり、物質的なものと別に、生

世界で活躍する県人

が、現地の話では、ひどい時に行けば道はない街で過す。二年前、日本に帰りたいと思つたことほなかつたのかとの質問に対し、「何

マイタリタイに感銘

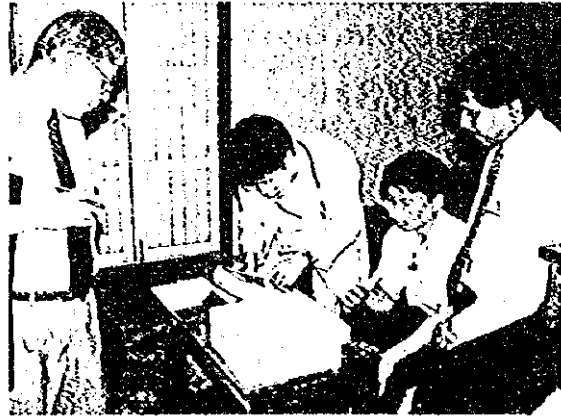
つらい経験も笑顔で語る

国士づくりに協力する海外青年協力隊、災害時に出動する国際緊急援助隊。今年連載した「ワールドワイドみやぎ」の取材を通じて、海外で現地の人々のために汗を流した県内の人たちに巡り会った。日本とはかけ離れた生活の中でのそれぞれの感想が興味深かった。

インドネシア各地で頻発した森林火災による煙霧(スモッグ)が周辺のマレーシア、シンガポールなどの住民にも深刻な健康被害をもたらし始めた九月下旬、国際協力事業団(JICA)東北支部の橋口祐子

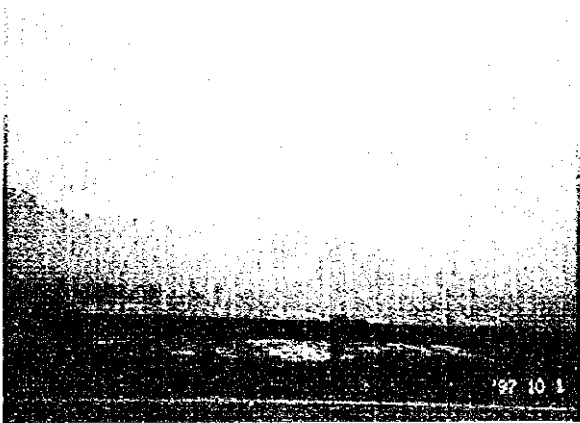
をさらに上回り、八〇を越す状況。目やのどの痛み、人畜も二十年前、青森海が印象的だ。取材を重ねるたび、その土に積出していた。到着時には好転していましたが、周囲はジャングルで、十五

共逆するのは、つらいとも思われる経験をいすれも笑顔で振り返ることだ。現在も、千人近い若者がなまか、の問いに橋口さんはいこう語ってくれた。再び、思い出を語る彼らの何が残るから、世界のと

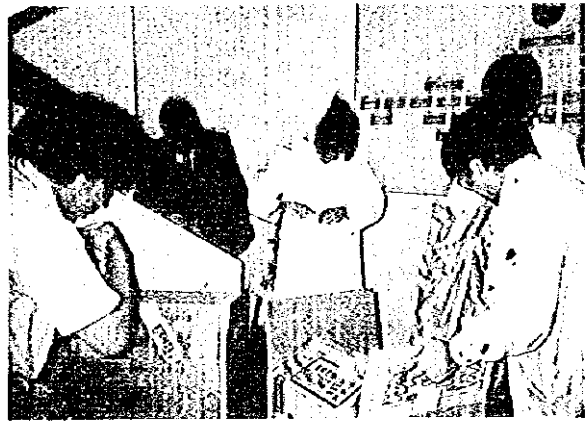


マレーシアで健康への影響を調査する援助隊のメンバー(橋口さん撮影)

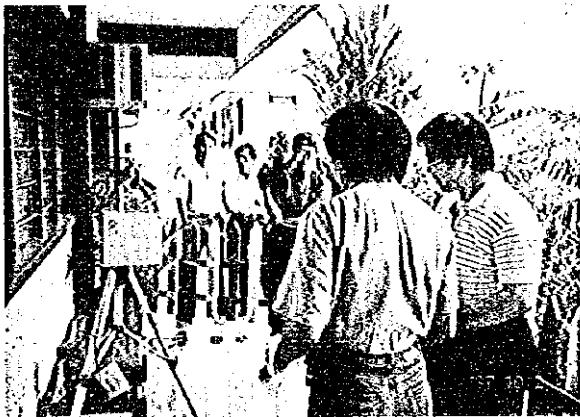
(野崎 尉)



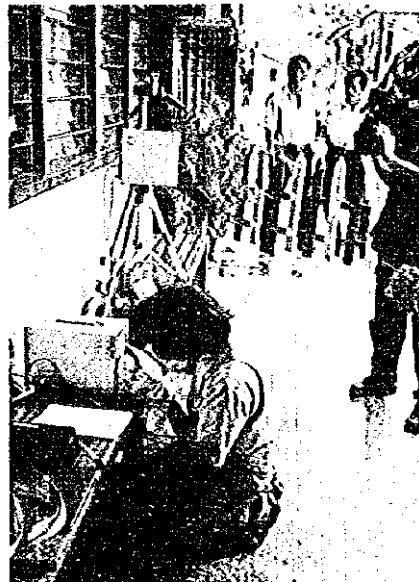
ヘイズによる視界不良が深刻化している。晴れていても太陽がかすんで見える。(於クアラルンプール)



携行機材を開梱し、活動の準備をする専門家チーム。



学校敷地内に大気汚染測定機を設置する根津団員、渡辺団員。(クチン)



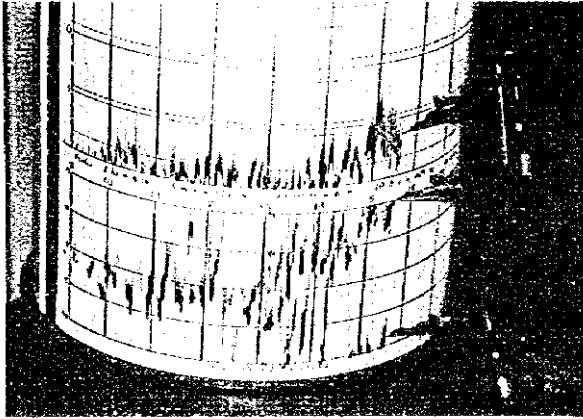
同左



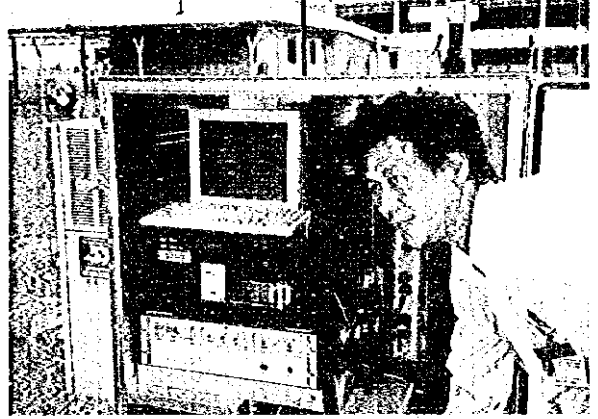
大気汚染の測定状況を調査する専門家チーム。(於クチン)



同左



マレーシア側の大気汚染測定状況。



マレーシアでは、最新の大気汚染測定機器も導入されていた。(於クチン)



問診票を記入する生徒達。(於クアラルンプール)



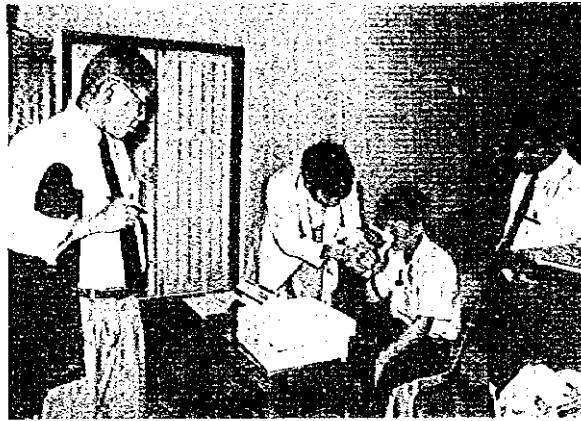
問診票の記入方法について説明する富岡団員。



呼吸機能の測定方法について生徒達に説明する谷口団員。
(於クアラルンプール)



生徒の呼吸機能を測定する富岡団員。新聞、テレビ等でも大きく報道された。(於クチン)



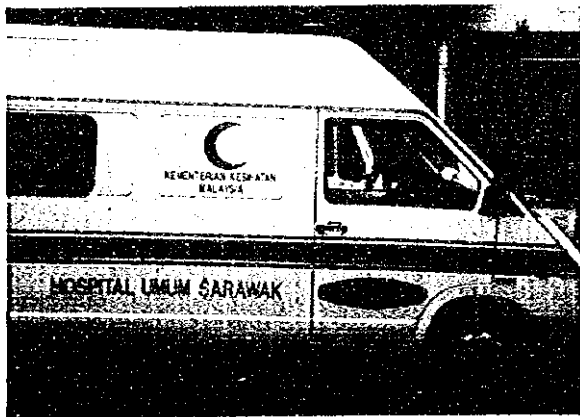
生徒の呼吸機能を測定する富岡団員。(於 クチン)



専門家チームの活躍を大きく報じる現地新聞。



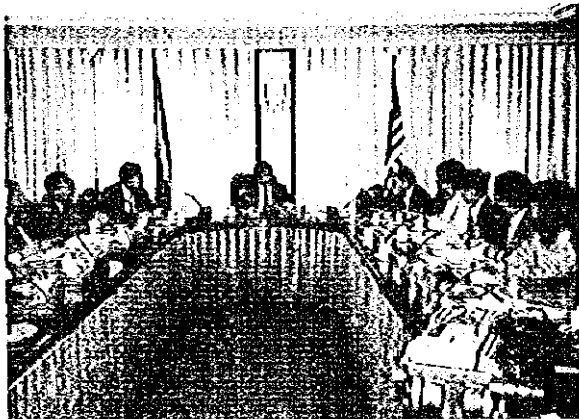
同左



サラワク総合病院。(クチン)



サラワク総合病院。(クチン)



最も被害が深刻だったサラワク州にて関係者と協議。
(於クチン)



同左



クチンにおける活動結果につき、州政府関係者へ報告。
(於クチン)



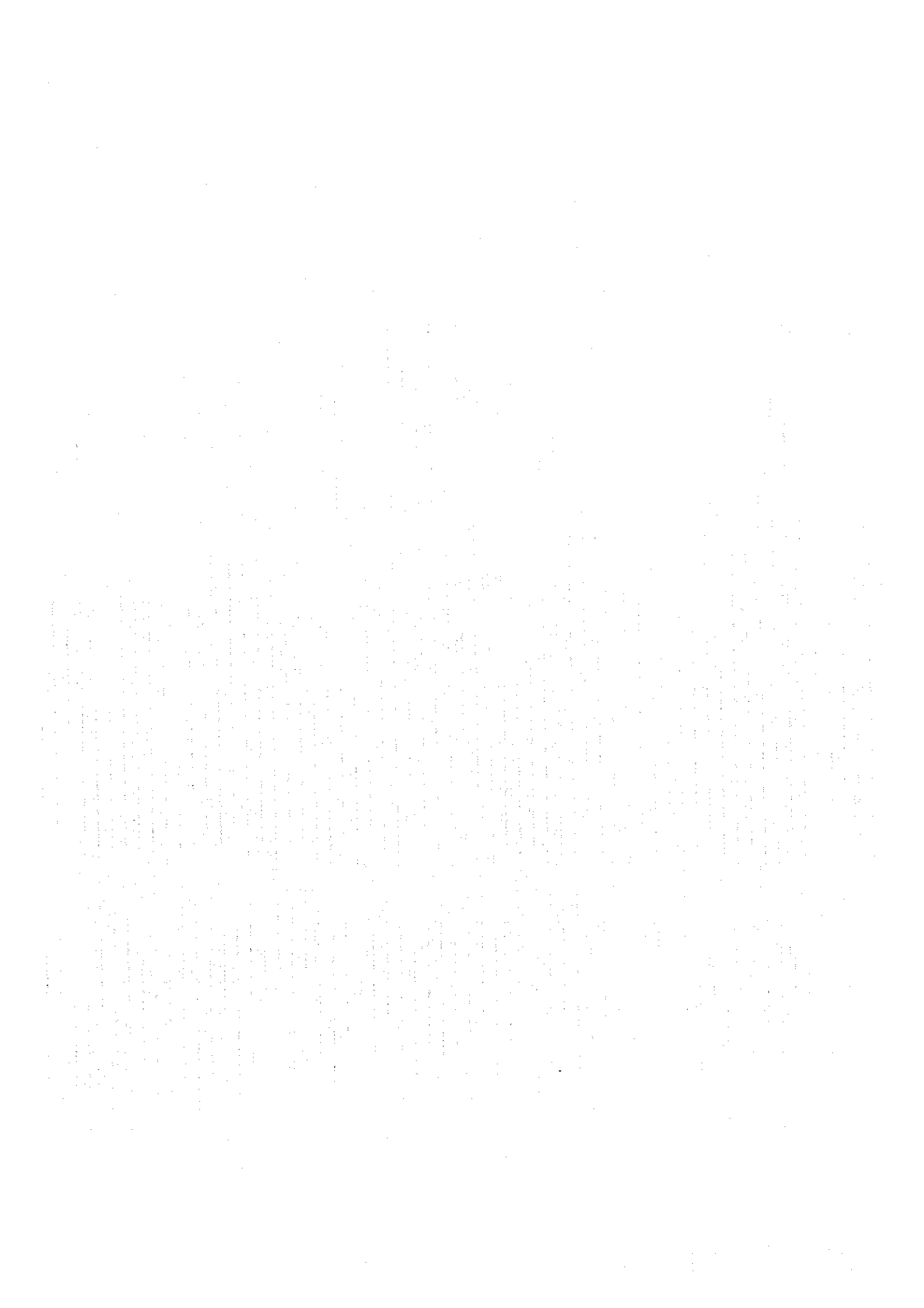
活動結果等について、マスコミからインタビューを受ける石井団長。
クチンでは、新聞、テレビで、連日、専門家チームの活動状況が大きくとりあげられた。



報告書提出にあたって、マスコミの関心は高かった。
(於クアラルンプール)



環境大臣へ、報告書を提出。(於クアラルンプール)



JICA